

ピアホームだより

2016. 4. 10

28年度ピアホーム事業方針

- 1 個別支援計画の強化
- 2 住まいの安全性の向上—自動火災報知機導入検討
- 3 区内グループホームの定期的な会合参加

としています。

前号に引き続きクラブハウス町田の講演・勉強会について報告します。

オープンダイアログの可能性

3月12日、最後の締めくくりとして話題の「オープンダイアログ」について勉強しました。日本でいち早く「オープンダイアログ」を紹介した斎藤環先生を迎へ、同じく、日本にイタリアの先進的な精神医療の取り組みを紹介し続けているジャーナリスト大熊一夫先生を迎へ、討論したものです。

さて、現在の利用者への精神医療をみます

と、いわゆる非定型抗精神病薬が主流になりつつあり、精神科リハビリも徐々に定着してきていると感じています。しかし、依然として多剤投与(今度は非定型抗精神病薬)、薬物療法中心の治療が主体のように思います。

「オープンダイアログ」は、日本の精神医療のあり方に対する根源的な問いとなりそうです。その概要については1月号に載せましたので、今回のお話で感じた点について述べてみたいと思います。

オープンダイアログを平たく言うと

障害者に対し、周りの人達が、普段着で、隠しごとなく、気負わず、そして優しく接すると言うことでしょうか？

思いやりの心かな？但し、実際の場面では、周りの人は、たぶん我慢の連続のように思います。急性期に措置入院等ではなく助けに来る？

どんな場面でも当事者との信頼関係が無い所ではダイアログは成立しません。暴れている当事者の所へ、専門家といえ、複数の知らない人が行って、本当に心を開いてくれるのでしょうか？でも、この底抜けの楽天主義？

“助けに来たよー！！”と押しかけることができる

ならほんとに素晴らしいですね。

目からうろこの逆転の発想

必ず本人を入れた会議を持ち、事前・事後の会議を持たない。リフレクティング(説明が長くなるので調べて下さい)、相手を心から信頼させ、安心させるなどの驚きの技法がある。

疑問？

精神障害者との対話の大切さは感じるころです。また、日々の社会生活を送ること(リハビリ)が大切だと感じています。統合失調症はその人のあらゆる能力を低下させます。社会生活から外されることでこの事が一層進むのでしょうか。

治療グループが短時間関わり、そんな簡単に治癒し自然に社会復帰するのでしょうか？

お薬の効果は、統計的なシステマティックレビューで確認されています。この辺の科学的な検討の乏しさが課題でしょう！？

それでも、オープンダイアログは真実を突いていると思います。

一過性に終わらず、統合失調症患者の最大の目標—再発をさせない！そんなリハビリの手法？として根付かせていけたらと思いました。

今後のスケジュール

<4月19日>Uさんカンファレンス